

## 学位論文の審査結果の要旨

本論文で申請者は、医療機関において日々小児の感染症対策に取り組んでおり、本研究は、特殊な免疫特性を有する小児の集まる病棟という場所における感染起因菌の解析と、それにより得られる臨床における感染流行の予防、診断、治療への知見の集積を報告している。

第1章は、抗菌薬耐性となる ESBL 産生菌の小児患者での保有率に関し、性別、年齢、基本疾患での傾向について論じ、原因菌の特定前の治療における有用な情報を提供した。

第2章においては、院内感染の原因菌である *Burkholderia cepacia* complex の検出とその収束について細菌学的にアプローチした事例を報告し、アウトブレイクの阻止のための手法を提案した。

第3章においては、稀少感染症例である *Kingella kingae* を起因菌とする骨髄感染について、臨床像と細菌学的特徴を解析し、感染症所見における本起因菌の同定の重要性を論じた。

第4章では、小児臍炎から分離された *Enterococcus faecalis* SCV 菌について、細菌学的、生化学的、そして遺伝子解析の調査を通して、オレイン酸要求性であることを発見し、その難治療性のメカニズムを推定することで、検出と治療の将来像について論じた。

以上を総括して、本論文は小児の感染症に対し、種々の臨床症例から、詳細な細菌学的、生化学的、分子生物学的検討を加え、新規な現象の発見とその解析を含め、感染症治療に対する重要な知見の提示や細菌臨床検査への新しい考え方を提案する内容である。講座の審査基準の目安に合致し、論文内容は発表済みの論文の別刷り等により内容確認が可能である。よって、学位論文に値するものと判断する。

## 公表主要論文名

1. Minami, K., Shoji, Y., Kasai, M., Ogiso, Y., Nakamura, T., Kawakami, Y., Saito, Y., Kuzumoto, K., Kubota, N., Yumoto, K. & Ishii, K. Proportion of rectal carriage of extended-spectrum beta-lactamase-producing Enterobacteriaceae in the inpatients of a pediatric tertiary care hospital in Japan. *Japanese Journal of Infectious Diseases* **65**, 548-550 (2012).
2. Kuzumoto, K., Kubota, N., Ishii, K., Yumoto, K., Ogiso, Y., Nakamura, T., Katsuyama, T., Oana, K. & Kawakami, Y. Successful cessation of transmitting healthcare-associated infections due to *Burkholderia cepacia* complex in a neonatal intensive care unit in a Japanese children's hospital. *European Journal of Medical Research* **16**, 537-542 (2011).
3. Kubota, N., Kuzumoto, K., Hidaka, E., Yoshizawa, K., Yumoto, K., Oana, K., Ogiso, Y., Nakamura, T. & Kawakami, Y. First isolation of oleate-dependent *Enterococcus faecalis* small-colony variants from the umbilical exudate of a paediatric patient with omphalitis. *Journal of Medical Microbiology* **62**, 1883-1890 (2013).